

# 大学生の LINE 利用に関する意識調査

## ーコミュニケーションやマナーの問題点を属性別に紐解くー

田島博之（秀明大学 IT 教育センター）

概要：青少年たちに急速に広がった LINE。安易にコミュニケーションがとれる反面、トラブルも多い。コミュニケーションの本質を知らぬためにイジメや事故に巻き込まれる青少年が後を絶たない。このような状況の中で研究者は大学生の LINE 利用について調査研究を行ってきた[1][2]。平成 28 年度 6 月、秀明大学 IT 教育センターでは「IT 教育に関する調査（2016 年度）」を行った。ここで研究者は LINE 利用に関する設問作成やデータ分析に携わった。本研究は上記の調査結果から LINE におけるコミュニケーションやマナーについてのデータに着目し、それらの属性を加味した分析と考察を行なっている。結果として現在の大学生の LINE 利用における問題の一端を示すことが出来たと考える。

キーワード：LINE, いじめ, リテラシー教育, 情報活用マナー, SNS

### 1 はじめに

近年のインターネットの普及に伴う、高度情報化の社会において人々のコミュニケーションの手段は急速に変化してきた。連絡の手段としては、音声による通話から文字や画像を使った電子メールや SMS、そして近年ではインターネットの高速化を背景として Push 型 SNS である LINE が登場した。LINE は感情表現を LINE スタンプと言う形で表現することで多くのユーザーを取り込み、文字コミュニケーションのスタンダードへと昇り詰めている。その後も通話機能、グループ機能を拡充するとともに、画像編集、動画編集、音楽配信、LIVE 動画配信等、現在も拡大の一途をたどり SNS のプラットフォームとして学生達の連絡手段の主流となっている。

多くの青少年が LINE を利用する半面、LINE を使った事件や犯罪がニュースを賑わせるようになったのも事実である。様々な要因が考えられるが、その一つとして急速な情報化社会の変革に青少年のモラルやマナーといったリテラシー教育が追い付いていないことが言える。文科省では 21 世紀を切り開く青少年のために ICT 技術の向上を謳っているが[3]、現状は、その過程である。

本研究は LINE の利用状況の調査の結果をもとに大学生の LINE コミュニケーションやトラブルの要因に焦点を当てていく。

### 2 調査委の概要と研究方法

調査名：「IT 教育に関する調査（2016 年度）」

調査組織：秀明大学 IT 教育センター

調査対象：秀明大学 1 年～4 年（約 1600 人）

調査期間：2016 年 6 月 20 日～7 月 4 日

調査方法：Google フォームからの入力

有効回答数：283 人

表 1 男女、国籍別内訳 単位（人）

	日本人学生	留学生	計
男性	106	121	227
女性	25	31	56
計	131	152	283

上記調査は 83 題の設問からなり、本学学生の IT 利用に関する全般的な状況を調査している。この調査で研究者は主に LINE のパートを担当し、質問の作成と分析を行っている。

そこで、本研究は研究者の担当した調査データを分析することで、コミュニケーションのツールとして LINE を利用する大学生の状況を明らかにする。

### 3 調査結果 1 基本調査結果

本章では本研究の柱となる本学学生の LINE 利用状況の基礎的なデータを示す。

#### 3. 1 LINE の利用率

以下の表は LINE の利用率を示している。日本人の 97.7%，留学生の 92.8%，全体では 95.1% と共に高い利用率であることが分かる。

表 2 LINE 利用人数 単位 (人)

	日本人学生	留学生	全体
使う	128	141	269
使わない	3	11	14
合計	131	152	283

平成 26 年度に株式会社トモノカイが行った「大学生の SNS の利用実態」では、調査 248 人中 96% の学生が LINE を活用しているが、現状ほぼ 100% の学生が LINE を通信手段として利用していると考えられている[4]。

#### 3. 2 利用状況の基本統計量

##### (1) 各種登録数

以下の表には友人アカウント、グループ所属数、教員が運営するグループ所属数について平均値、中央値、標準偏差値を示している。

表 3 アカウント登録数

	留学生	日本人	男性	女性	全体
平均値	75.9	107	92.4	88.9	91.3
中央値	50.0	100	65.0	72.0	68.5

アカウント登録数における日本人学生と留学生との比較では平均値、中央値ともに日本人学生が明らかに高い。また、男女別の比較では平均値では男性が高い値を示しているが中央値としては女性が高い値を示している。

表 4 グループ登録数

	留学生	日本人	男性	女性	全体
平均値	4.5	17.1	11.4	9.3	10.7
中央値	3.0	12.5	7.0	3.0	5.0

表 4 からはグループ登録数で日本人が留学生の平均値、中央値を 3~4 倍といった高い値を示していることが分かる。

表 5 からは教員が運営するグループの所属数では留学生の所属数が多いという結果がわかる。これは、留学生との連絡に LINE を活用する教員

が多いことを示している。男女別では女性の方が男性よりも高いポイントを示している。

表 5 教員運営グループ登録数

	留学生	日本人	男性	女性	全体
平均値	2.6	0.5	0.9	3.2	1.6
中央値	3.0	0.0	0.0	1.0	1.0

#### 4. 調査結果 2 連絡上のトラブルとマナー

本章では LINE で連絡する際に起きたトラブルの発生状況を調べるとともに、利用上のマナーの調査を行った。

##### 4. 1 連絡上のトラブル

表 6 からは、約 4 割もの学生が送信先を間違えた経験があることが分かった。

表 6 連絡する相手を間違えた経験

	日本人学生	留学生	全体
ある	36.7%	42.6%	39.8%
ない	62.5%	53.9%	58.0%
無回答	0.8%	3.5%	2.2%
合計	100%	100%	100%

また表 7 からは日本人で 25.0%，留学生で 42.6% と、ほぼ 3 人に 1 人の割合で文章を間違えたままメッセージを送ってしまい恥ずかしい思いをした経験があることがわかった。

表 7 文章を間違えて恥ずかしい思いをした経験

	日本人学生	留学生	全体
ある	25.0%	39.7%	32.7%
ない	74.2%	55.3%	64.3%
無回答	0.8%	5.0%	3.0%
計	100%	100%	100%

表 8 誤った情報を受けた経験

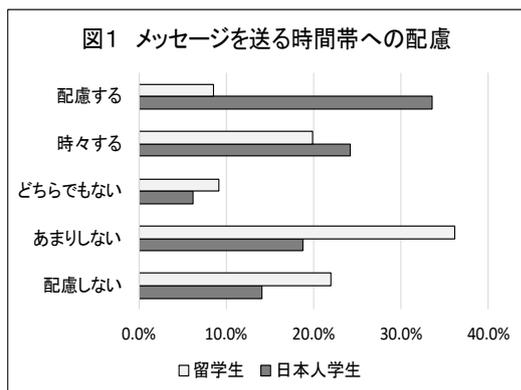
	日本人学生	留学生	全体
ある	36.7%	32.6%	34.6%
ない	61.7%	64.5%	63.2%
無回答	1.6%	2.8%	2.2%
計	100%	100%	100%

さらに表 8 についても 3 人に 1 人の割合で誤った情報を受けた経験があるとしている。

##### 4. 2 利用上のマナー

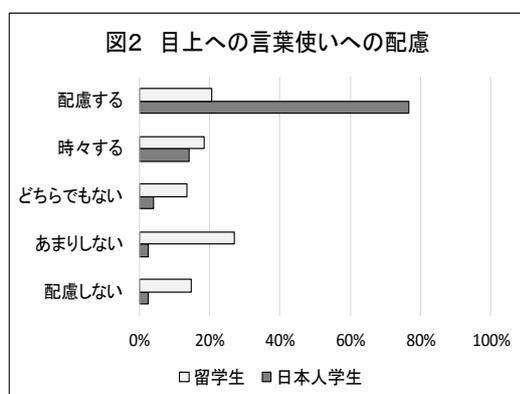
###### (1) 時間帯への配慮

日本人学生と比較したとき留学生はメッセージを送る時間帯への配慮をしないことが分かる。



## (2) 目上への言葉使い

日本人学生の90%以上が目上への言葉使いを意識するが、留学生は30%程度である。



## (3) 講義中の利用

講義中のLINE利用経験者は日本人で25.0%、留学生で30.5%と、少なからず受講マナーの意識が低い学生がいることが分かった。

表9 講義中にLINEを使ったことがありますか

	日本人学生 (%)	留学生 (%)	全体 (%)
はい	25.0%	30.5%	27.9%
いいえ	73.4%	64.5%	68.8%
無回答	1.6%	5.0%	3.3%
計	100%	100%	100%

## 5. 調査結果3 利用上の危機意識

本章では、LINEを活用する上での危機意識について分析を試みる。男女、また日本人学生、留学生別に比較をしていく。

### 5.1 コミュニケーションへの警戒心

#### (1) LINEの危険性への認識

日本人学生と留学生との比較では日本人学生のほうが危険性への認識が高い。また、男女別

の比較によると女性の方が危険性への認識が低いことが分かった。

表10 利用上の危険性を知っていますか

	男性 (%)	女性 (%)	全体 (%)
知っている	73.3%	68.5%	71.7%
知らない	26.7%	31.5%	28.3%
計	100%	100%	100%

表11 利用上の危険性を知っていますか

	日本人学生 (%)	留学生 (%)	全体 (%)
知っている	82.8%	61.7%	71.7%
知らない	17.2%	38.3%	28.3%
計	100%	100%	100%

## (2) アカウントの伝達

IDを聞かれた際に教えないことがあるか？との設問に対しては、男性、女性別で6割弱とほぼ同等の結果を示している。

表12 IDを教えない経験(男・女)

	男性 (%)	女性 (%)	計 (%)
ある	57.2%	58.4%	57.6%
ない	40.6%	39.3%	40.1%
無回答	2.2%	2.2%	2.2%
計	100%	100%	100%

また、日本人学生、留学生別でも男女別と同様にすべての属性で55%以上の学生がアカウントを教えないことがあると答えている。

表13 IDを教えない経験(日・留)

	日本人学生 (%)	留学生 (%)	計 (%)
ある	61.7%	53.9%	57.6%
ない	35.9%	44.0%	40.1%
無回答	2.3%	2.1%	2.2%
合計	100%	100%	100%

## (3) 伝達時の慎重度

全項目から6割近くの学生がアカウントを知らせることに慎重になっていることが分かった。

コミュニケーションツールとしては便利ではあるが、人間の繋がりに対しては慎重になっているのは、近年のICT教育の成果であろうか。

ここでは、アカウントを知らせる際の慎重度を4段階の尺度で聞く設問への結果を示す。

表14では男女別の比較によると同等に60%を超える学生がIDを教えることについて考えていることが分かる。

表 1 4 IDを教える場合の慎重度 (1)

	男性	女性	全体
慎重に考えている	33.3%	31.5%	32.7%
考えている	30.6%	29.2%	30.1%
あまり考えない	20.6%	19.1%	20.1%
考えない	11.1%	15.7%	12.6%
無回答	4.4%	4.5%	4.5%
合計	100%	100%	100%

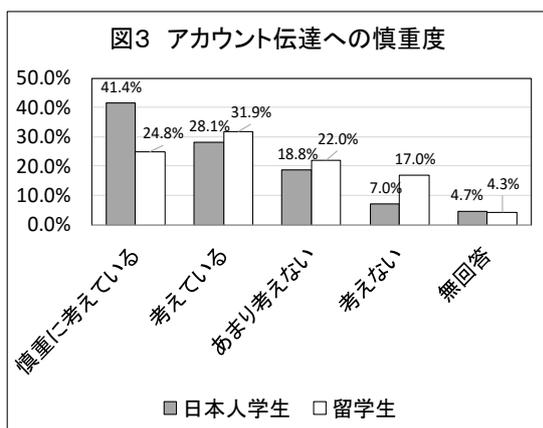


図3からは留学生よりも日本人学生の方がアカウント伝達に慎重になっていることが分かる。

#### (4) 喧嘩やトラブルの原因

男性、女性ともに予想以上の学生がLINEを切掛けとしたトラブルを経験していることが分かる。また男女別では女性の被害経験率が男性と比べてかなり高い。LINEによるイジメが女性に多いことと関連性があると考えられる。

表 1 5 LINEがトラブルに発展した経験 (1)

	男性	女性	全体
ある	17.2%	30.3%	21.6%
ない	80.0%	65.2%	75.1%
無回答	2.8%	4.5%	3.3%
合計	100%	100%	100%

表 1 6 LINEがトラブルに発展した経験 (2)

	日本人学生	留学生	全体
ある	18.0%	24.8%	21.6%
ない	81.3%	69.5%	75.1%
無回答	0.8%	5.7%	3.3%
合計	100%	100%	100%

表16では、日本人学生と留学生との比較を行っている。この比較では留学生の方が高い値を示している。これは、留学生が日本でLINEを使うとき彼らの日本語の能力の問題が考えられる。これは小中学生と同じで言葉を使ったコミ

ュニケーション能力の有無が、LINEを発端としたトラブルになることが間接的にではあるが示されていると考えられる。

## 6. まとめ

近年のICT教育により多くの学生がLINEのようなSNSに関心を持ち始めているが、約3割もの学生が危機意識を持っていないことが分かった。これは、LINEを利用する上で自身のアカウントの伝達に対する意識データにも数値が表れている。日本人学生と留学生の比較では留学生が利用率で劣るものの、グループLINEを活用していることがわかった。また、言葉遣いや連絡時間帯といったLINE利用上のマナーの点では日本人学生はもとより留学生には更なる教育が必要とされることが分かった。

男女別の比較で特筆すべき点はLINEを原因としたトラブルの発生率が高い点である。これは、女性が特定のグループを大切にすると因果関係がありそうである。

本学の調査では本論で紹介できなかった多くのデータが得られている。今後は更に整理分析し、現在の大学生の状況を考察するとともに、質的調査を導入しながら、起こりうる問題への具体的な対策を示していきたい。

## 参考文献

- [1]田島博之, “学生の人間形成を目的としたSNS導入に関する考察”, 教育改革 ICT 戦略大会資料, pp276-277” (2015).
- [2]田島博之, “少人数クラスの運営に汎用型ソーシャルネットワークを活用した教育事例の研究”, 第14回情報科学技術フォーラム講演論文集(第3分冊) pp.533-534 (2015).
- [3]総務省, “特集テーマ「ICTの過去・現在・未来」”, 平成27年版 情報通信白書(総務省),
- [4]株式会社 トモノカイ, “大学生のSNSの利用実態”, t-news, <http://www.tnews.jp/entries/11140> (2014).

